

第1回 技術職員のためのグローバルセミナー 世界の研究現場を知ろう！ ～ベトナムの大学ってどんなの？～

植原 邦佳

技術部 技術職員

令和3年9月27日(月)に「第1回 技術職員のためのグローバルセミナー 世界の研究現場を知ろう！ ～ベトナムの大学ってどんなの？～」が開催されました。

大学などのグローバル化が問われている中、研究者や学生ばかりでなく技術職員のグローバル化が大きな課題となっています。しかし、現在に至るまで技術職員が国際的な視野を広げる機会はほとんどありませんでした。そこで、植原 技術職員が中心となり、全国の技術職員を対象に本セミナーを企画しました。技術職員が諸外国に関する見識を深め、より良い研究支援の輪を広げられるよう、世界各国の研究環境について学ぶことを目的としたセミナーの第1回となる今回は、接合科学研究所の協力により、ベトナムに焦点を当てたセミナーと致しました。

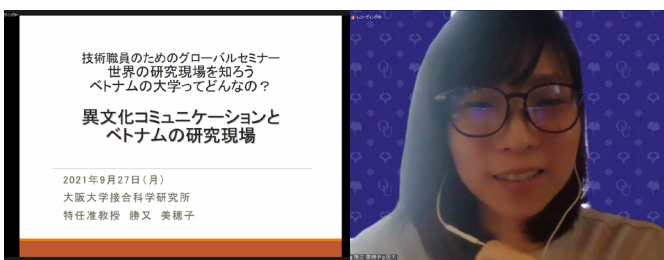
まず始めに「異文化コミュニケーションとベトナムの研究現場」と題して、接合科学研究所 広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センターの勝又 美穂子 特任准教授にご講演頂いた後、勝又 特任准教授の進行で接合科学研究所のベトナム人留学生 2名と他大学の技術職員3名によるパネルディスカッションを実施しました。そして最後に、参加者が少人数のグループに分かれてセミナーを振り返り、感想や学びを共有しました。

勝又 特任准教授による講演では、一般的なコミュニケーションやミスコミュニケーションがおこる仕組みについて述べられた後、異文化コミュニケーションの基本や異文化理解において求められる態度についての説明がありました。その後、ハノイ工科大学の研究環境やベトナムの教育システムについて述べられました。

パネルディスカッションでは、「最先端の装置がたくさんあって驚いた」「先輩・後輩文化に戸惑った」のように、留学生ならではの視点で留学の体験談が語られました。また、技術職員パネラーから留学生へ、「機器を購入する際の予算」や「研究室制度がない場合の研究の進め方」についての質問が挙がりました。また、留学生向けに英語の装置説明動画を作製する取り組みも紹介されました。

少人数のグループでのセミナーの振り返りでは、「留学生とのコミュニケーションを考える機会になった」「日頃触れることのない話を聞けた」「ベトナムの研究制度との違いに驚いた」といった声が飛び交いました。各大学の留学生対応についても活発な意見交換がなされ、日本に来て研究を行う方々により良い環境を提供するための一助となるセミナーになりました。

今後も、様々な国やテーマに焦点を当て、全国の技術職員が異文化理解に意識を向ける小さなきっかけや、留学生と良好な関係を築くヒントが得られるようなセミナーを開催していく予定です。



上：勝又美穂子准教授の講演の様子
下：植原 技術職員（モデレータ）



パネルディスカッションの様子